

KHJ 本部からの呼びかけに応じて

岡山県知事(5/24)と岡山市長(8/24)に

KHJ 岡山きびの会が要望書を提出しました

この動きは社会福祉法の改正により、国の方針としてひきこもり問題の実態調査をして、我が事・丸ごと地域共生社会の創設を実現する方向で、KHJと協力すべきことが努力目標に掲げられたからでした。ということは津山市もその方向で対策を考えていることとなります。私達も保健所や市や社協に積極的に働きかける必要があります。

以前は引きこもり問題と言えば18歳から39歳までを対象にしてきましたが、2・3年前から「8050問題」という言葉を作り出し、大掛かりな調査を開始する予定になっています。国はこれまでのKHJの実績を評価して協働関係を築こうとしています。

それぞれの地域では、ニート対策がうまくいっている所とか、自立支援塾がうまくいっている所とか、生活困窮者対策が成果を上げている所とか様々でしょうが、それらをすべて包括するような『ひきこもり地域支援センター』はすべての都道府県と政令指定都市に設置されており、そのセンターの充実が必要でしょう。今は高齢者支援が中心の地域包括支援センターと合わせて、福祉政策の充実が急務となっています。

私が研究している田辺哲学には、「懺悔道としての哲学」という思想があり、戦後の一億総懺悔という実質の伴わない政治的な掛け声に利用されましたが、今日の「一億総活躍社会」という言葉は実質的な成果を上げて初めて意味を持ってきます。(川島)

マツタケの”綱” “の想いで

今は素人がマツタケをひくことは夢のまた夢でしょうか。今から30年前まではその辺りであり苦勞しないで採れました。それでも“つなに当たる”のは一生に1回のことだとよく言われていました。綱に当たったらカップを脱いで包んで山を降りるとも聞いていました。



忘れもしません、35歳の秋でした。こんな所にと思える場所でした、みんなの通る山道から3メートルしか離れていない少しくぼんだ松の木も少ない場所でした。膝がガクガク震えたことを覚えています。よく言われているように“輪”になっていました、直径が2メートルくらいでした。夢中で採りましたが小さいものはまた大きくなったらと残しておきました。数日していくと何もありません、“茸採り名人は跡を隠す”と言いますがうれしさのあまり“ここにマツタケあり”の採り方が場所を来た人に知らせたようでした。

カップに包んだマツタケは4キももあり、子供の自転車になりました。今はマツタケどころか“ずい茸”も採れませんが“くろかわ”のはえる場所を数年前からみつけました。誰にも言わないで楽しんでいきます。(Y.C)

お知らせします！

※10月27日トトロサロン (収穫祭)

10月例会で詳細を決めますのでご意見下さい。

※11月11日(日) にぎわい市

皆様のご協力で今年も“やきそば”、“こんにゃく”“野菜など販売予定です。

